

平成29年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・最終 )

広中央中学校区 校番 4 学校名 広中央中学校

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	学力の育成、心の育成等、目標が一貫してシンプルであり、分かりやすく設定されており、指標が明確である。達成度に応じて授業改善や生徒指導につなげていく方策が取れやすいものと評価している。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策は、学習規律、規範意識、家庭学習の習慣化に主眼が置かれており、生徒の理解度を高めていくために教職員が一丸となって目標に向かっており、適切である。ベルスタート等「時を守る」指導が徹底されているのは大きな成果である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	現状に甘えず、学校力の更なる向上を期して、適切な評価が行われている。また、分析も学年実態の差違等、詳細にわたり多面的に行われている。
今後の改善策(案)の適切さ	B	課題が明確で、改善案も具体的になっている。解決に向けて教職員一体となって邁進して欲しい。ただし、「自分の居場所がない」と感じている生徒が14%存在していることを、学校として大きな課題と捉えて、教職員が寄り添いながら取組を進めて欲しい。
その他		<p>教師集団の一枚岩となった徹底指導が生徒の中に浸透している。その結果が学力テストに反映している。授業のまとめを工夫したと答える教職員の割合が71%と自己評価を厳しくとらえている姿に、現状に甘えない姿が頼もしい。生徒自身が、それに応じて頑張っている姿が垣間見える。</p> <p>学校を抱える自治会の者として、ホームページの存在を自治会報の中で取り上げ、生徒の成長と教職員の頑張っている姿を暖かく見守っていきたい。</p>

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>昨年度、「主体的な学び＝学習者基点の、能動的で深い学び」を創造するために、本校のめざすべき授業スタイルについて、理論的な整理を行った。しかし、その主たる取組の一つである、「振り返りの工夫」において、教職員の実践が伴わない実態があり、これは昨年度から改善できない大きな課題である。</p> <p>「教師集団が一枚岩となった徹底した指導」が生徒指導面での変革をもたらせたと委員の方から評価されたように、授業改善においても組織的な推進体制を構築する。そのために、昨年来行ってきた「授業交流」を発展的に解消し、授業実践を通して、全ての教職員が授業改善について意見を交わし、共に学ぶ合う場を設定する。</p>
--------------------	--